

患者様へ 内視鏡診断時のピオクタニンの使用について

消化管の腫瘍の診断において、腫瘍がどこまで進展しているかを判断することは非常に重要です。この診断の精度が低い場合は間違った診断や、無駄な内視鏡治療、過侵襲な外科的治療の増加につながります。精度の高い診断をするためには腫瘍にピオクタニン溶液を塗布することが必要で、他の薬剤で代替することはできません。

ピオクタニンは動物実験では発がん性の報告はありますが、内視鏡診断では腫瘍部に少量撒布するのみでかつ撒布した腫瘍部も基本的に内視鏡切除や外科的な切除を行うのでピオクタニンの使用に伴うデメリットはかなり低いと考えられています。

以上より当院では、発がん性のデメリットよりも質の高い内視鏡診断に寄与し適切な医療を提供することによるメリットが上回ると判断して内視鏡診断時にピオクタニンを使用しております。